

ステージは京の奥座敷

第2回 京都亀岡 ハーフマラソン 大会



スタートの合図で駆け出すランナーたち

昨年12月11日、「第2回京都亀岡ハーフマラソン大会」を開催しました。今回は、北は北海道、南は九州沖縄まで3,440人のランナーが、初冬の亀岡を駆け抜けました。

スタートウィニッシュとなる亀岡運動公園競技場の付近では、前日から亀岡の特産品やグルメなど「おもてなし出店」約40店に行列ができ、大いににぎわいました。マラソンのスタートが切られると、沿道の「おもてなし応援隊」によるブラスバンドや太鼓の演奏などが声援に彩りを添えるものと



おもてなし出店は大にぎわい



快走するランナーたち

もに、コース途中では地元住民の皆さんのボランティアによる給水所が設置され、ランナーの熱い走りを後押し。全国から集まったランナーや地域の皆さん、応援する皆さんみんな盛り上がる大会となりました。



エールを送る桂川市長



おもてなし応援隊



最優秀賞を受賞した原田さん

「亀岡牛」

生産者が農林水産大臣賞を受賞!

11月に神戸市において開催された「第63回近畿東海北陸連合肉牛共進会 去勢牛の部」において、原田雅之さん(76歳・西別院町)が出品された亀岡牛は、肉質最上位が11頭も出る激戦の中で、最優秀賞(農林水産大臣賞)を受賞しました。同共進会は、肉牛の改良増殖に寄与し、その普及を促すとともに、飼育管理・経営技術の向上および農家の総合生産力を増強し農家経済の向上と合理化を図るためのもの

です。亀岡のおいしい水と空気に恵まれた環境の中、約20カ月の飼育期間を経て出荷される亀岡牛。重い体重をしつかり支えられるよう定期的に足の爪切りが行われるなど、丁寧に飼育されています。今回、近江牛や神戸牛、松坂牛などの名だたるブランド牛を抑えての受賞で、ロースの大きさや、きめ細やかな霜降りが評価されました。原田さんは「毎日、約200頭いる牛たちの世話をして、暑い夏は扇風機を使っています。暑い夏は扇風機を使っています。牛が餌

を食べる様子などを見て体調管理に気を配ります。今回、最優秀賞をいただいたことは、大変うれしいです」と話されました。皆さんぜひ、亀岡が全国に誇るブランド牛をお召し上がりください。



高く評価された「亀岡牛」

遊・You・かめおが ~ 1月のイベント情報 ~

亀岡市消防出初式 1月8日(日) 午前9時~11時30分

「防災ゼロ」への決意を新たにすため、亀岡市消防出初式を行います。

- 内容
 - 式典(亀岡中学校体育館)
 - パレード(市道紺屋停車場線)
 - 一斉放水(南郷公園)
- 問い合わせ
 - 自治防災課消防係 ☎22-0119



▲市中パレードを行う消防団員(平成28年)

第2回亀岡市立病院健康講座

1月28日(土) 午後2時~3時

加齢による体の変化と予防について、看護検査・リハビリの視点からお話します。

- ところ 市立病院2階ウェルネスホール
- 定員 80人(先着順)
- 入場無料(申し込み不要)
- 問い合わせ 市立病院地域連携室 ☎25-7313(代表)



▲第1回講座の様子

「アユモドキパーくん」をよろしく!

「京都スタジアム(仮称)」の建設地である亀岡市において、希少生物アユモドキの確かな保全と京都サンガF.C.の応援に向けた取り組みを、「アユモドキの保全と京都サンガの応援事業実行委員会」が進められています。

この取り組みの一環として、同委員会では、市民の皆さんや「京都スタジアム(仮称)」の来場者に愛されるロゴマークと愛称を公募により決定。愛称の募集には、全国から74作品が寄せられました。同マーク(上図)の愛称となった「アユモドキパーくん」は、アユモドキを保全(キープ)すること、サッカーのイメージを重ねて応募された「アユモドキパー」に、親しみをもってもらうため、審議会において「くん」が付け加えられたものです。

皆さんぜひ、「アユモドキパーくん」をアユモドキの保全と京都サンガF.C.応援のシンボルとして可愛がってください!

広報クイズ

霧の中に発生する太陽が複数あるように見える珍しい現象は何でしょうか。

ヒントは、広報紙の中にあります。
締切日 平成29年 1月31日(火) (必着)

はがきにクイズの答え、住所、氏名、年齢、電話番号、広報紙「キラリ☆亀岡」の感想を書いて、〒621-8501(住所不要)市秘書広報課へ。
正解者の中から抽選で5人に図書カードを差し上げます。当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます。
【前月の答え】『イクボス』でした。たくさんのおはがき、ありがとうございました。



明智がめまる

●ハイ! 広報広聴係です。いつも「キラリ☆亀岡」を愛読いただきありがとうございます。今年も、市内各地の話題や市政情報を皆さんにお届けするためスタッフ一同、一所懸命頑張りますのでよろしくお願い致します。

今回は新春特別企画として、「私の好きな「朝霧」の風景」を掲載しました。編集しながら、自然が亀岡盆地にもたらす現象が人々の生活を包み込み、ふるさとの原風景として大きな印象を残していることをあらためて感じました。

これまでマイナスイメージで語られることのあった「朝霧」も、見方を変えれば魅力と捉えることができます。そして霧のあとには、抜けるような青空。これが亀岡の冬の朝です。このようにいつもプラス思考で、今年も色んなことにチャレンジしていきたいと思えます。

(小林)